



## LUI「公募研究 A」成果報告書

研究課題（和文）：賀茂別雷神社文書から見る  
日本戦国時代の政治と文化

研究課題（英文）：Politics and Culture of  
Japanese Sengoku Period by the documents  
of the Kamo-wakeikazuchi Shrine

申請者名・所属先：金子拓・史料編纂所  
海外招聘者名：

### 1. 研究の目的

京都の賀茂別雷神社（上賀茂神社）には、14,000 点の文書が伝えられている（国指定重要文化財）。このうち算用状と呼ばれる史料は約二割の 2,800 点にのぼっている。算用状は神社を構成・経営する神職である氏人物中が毎月作成した、月ごとの収支決算報告書であり、そこには神社の神事・所領経営、政治工作、日常的な武士たちとの交流、饗応のため準備する食膳の食材など、さまざまな項目の収支が列挙されている。

算用状が主に残るのは、日本の戦国時代から江戸時代初め（16 世紀半ばから 17 世紀初頭）にかけての時期であり、とりわけ織田信長・豊臣秀吉が政治の実権を握った時期には毎月分がほぼ伝存している。これらはおおそ史料編纂所が撮影を行ない、研究資源化されている。

これら算用状を詳しく分析すれば、京都の伝統的支配階層（寺社）が、その時々において、武家の政治権力をどのように見なしていたのか（誰に頼ればいいのかと判断したのか）がわかる。いわば算用状は、戦国時代京都の政治的推移を考えるうえでの「定点観測」史料なのである。

本研究では、一見無味乾燥な数値が並ぶだけに見える史料が、総体として分析するといかなる政治史を語りうるものとなるのか、日本史学における史料のとらえ方について新たな切り口を提示したい。またその他神社に残る算用状以外の文書も有機的に用い、戦国時代の上賀茂神社と武家権力の関係を明らかにしたい。さらに算用状に見える食材も分析対象とし、この時代の食文化についても検討したいと考える。

### 2. 研究開始当初の背景

算用状は史料編纂所によりおおそ撮影され、同所の図書閲覧室から公開されているが、それらの総体的な研究はなされていない。いっぽうで算用状を部分的に利用した研究は皆無ではなく、申請者もまたこれまで度々部分的に利用してきたところであった。

### 3. 研究の方法

算用状にある記載項目から、研究目的に沿った記事をメモし、それらを整理しながら大きな時間の流れにそって検討する作業をおこなうとともに、必要に応じて賀茂別雷神社に出張し、原本を調査する。

### 4. 研究成果

新型コロナウイルスの感染拡大によって、当所予定していた神社への出張が限定されてしまい、十分な原本調査をおこなうことができなかった。ただし在宅での研究活動を余儀なくされたことにより、逆に算用状のデータ蓄積を進めることができたのは幸いであった。

十分な原本調査をできなかったこともあり、当初目的に掲げていた研究期間内に成果をまとめた書籍を刊行することはできなかったが、算用状を利用して、戦国・織豊期の政治史を考察する小論や史料紹介、口頭報告を行った。

### 5. 主な発表論文等

〔図書〕

『信長家臣明智光秀』（平凡社、2019 年 10 月）  
『賀茂別雷神社の所領と氏人』（共著、東京大学史料編纂所研究成果報告 2020-3、2021 年 3 月）

〔雑誌論文〕

「賀茂別雷神社文書中の羽柴秀吉書状について」（『古文書研究』51 号、2020 年 6 月）

〔学会発表〕

「賀茂別雷神社の算用状から何がわかるのか—歴史学と会計学から—」（東京大学ヒューマニティーズセンター・オープンセミナー、2019 年 10 月 25 日）

「松永久秀の室と家臣」（東京大学ヒューマニティーズセンター・オープンセミナー、2021 年 2 月 19 日）

〔その他〕 特になし